



ルート テーブルの設定

- [「ルート テーブルの一覧の参照」](#)
- [「ルート テーブルの追加」](#)
- [「ルート テーブル ルートの一覧の参照」](#)
- [「ルート テーブルへのルートの追加」](#)
- [「ルート テーブルに関連付けられているルートの編集」](#)

ルート テーブルの一覧の参照

手順

- ステップ 1** [Configure] > [Route Tables] を選択します。
表 11 に説明されているフィールドが含まれる、[Route Tables] ページが表示されます。
- ステップ 2** ルート テーブルを削除するには、次の操作を実行します。
- a. 削除するルート テーブルの名前の横にあるボックスを選択します。
 - b. [Remove] をクリックします。
 - c. [Cisco Unified SIP Proxy] ヘッダーで、[Commit Candidate Configuration] をクリックして、変更をコミットします。
- ステップ 3** この変更内容を、最後にコミットしたときの状態に戻すには、次の手順を実行します。
- a. 元に戻す変更があるルート テーブルの名前の横にあるボックスをオンにします。
 - b. [Revert] をクリックします。
 - c. [Cisco Unified SIP Proxy] ヘッダーで、[Commit Candidate Configuration] をクリックして、変更をコミットします。
-

ルート テーブルについて

SIP 要求を適切な宛先へ送るには、ルート テーブルを設定します。各ルート テーブルは、ルックアップ ポリシーに基づいて照合するキーのセットで構成されています。

たとえば、1つのテーブルで、各キーはダイヤルされた電話番号の市外局番を表す場合があります。テーブルでは、ダイヤルされた市外局番によって、タスクが実行されます。この例では、テーブルは、ダイヤルされた電話番号が 510 で始まっている場合を除き、呼び出しに 404 メッセージ (not found) で応答する設計になっています。別のテーブルは、ダイヤルされた電話番号がエスケープシーケンス (91) で始まっている場合を除き、呼び出しに 404 メッセージ (not found) で応答する設計になっています。

[Route Tables] ページでは、ルートテーブルを追加、更新、または削除できます。また、ルートを追加、更新、または削除することもできます。

ルートテーブル フィールド

表 11 に、[Route Tables] ページのフィールドの一覧を示します。

表 11 ルートテーブルパラメータ

パラメータ	説明
State	次のいずれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • [New] : 新しいレコード。コミット時に、アクティブな設定に追加されます。 • [Modified] : 変更されたレコード。コミット時に、アクティブな設定になります。 • [Deleted] : 削除されたレコード。コミット時に、アクティブな設定から削除されます。 • [Active] : アクティブなレコードとアクティブな設定。
Name	このルートテーブルの名前。有効な文字は、英数文字、ダッシュ、ピリオド、および下線です。
Routes	このルートテーブルに属するルート。

ルート フィールド

表 12 に、[Route Table: <ルート名>] ページのフィールドの一覧を示します。



(注)

選択したルートタイプにより、これらのパラメータの一部またはすべてが表示されます。

表 12 ルートテーブルのルートパラメータ

パラメータ	説明
State	次のいずれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • [New] : 新しいレコード。コミット時に、アクティブな設定に追加されます。 • [Modified] : 変更されたレコード。コミット時に、アクティブな設定になります。 • [Deleted] : 削除されたレコード。コミット時に、アクティブな設定から削除されます。 • [Active] : アクティブなレコードとアクティブな設定。

表 12 ルート テーブルのルート パラメータ (続き)

パラメータ	説明
候補値	
Key	ルート テーブルの検索キー番号を指定します。検索キーは、一致している SIP メッセージの一部を表します。また、ルーティング テーブルに対して一意である必要があります。
Route Type	次のいずれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • [destination] • [route-group] • [route-policy] • [response] • [default-sip]
宛先ルート タイプ (オプション。[Route Type] で destination または default-sip を選択した場合のみ使用可能)	
Destination Route Type	ルートのタイプ。宛先、ネクスト ホップ、またはその両方のいずれかを指定できます。
Network	SIP ネットワーク名を指定します。
宛先 (オプション。[Destination Route Type] で宛先または両方を選択した場合のみ使用可能)	
Host	宛先のホスト名または IP アドレス。
Port	宛先のポート。値は 1024 ~ 65535 です。
Transport Type	次のいずれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • [none] • [UDP] • [TCP] • [TLS]
ネクスト ホップ (オプション。[Destination Route Type] でネクスト ホップまたは両方を選択した場合のみ使用可能)	
SIP URI	ネクスト ホップの URI。
ルート グループのルート タイプ (オプション。[Route Type] で route-group を選択した場合のみ使用可能)	
Route Group	ルート グループの名前。
応答ルート タイプ (オプション。[Route Type] で response を選択した場合のみ使用可能)	
Response	ルーティング テーブル内のルックアップ キーに対して応答コードを指定します。
ルート ポリシーのルート タイプ (オプション。[Route Type] で route-policy を選択した場合のみ使用可能)	
Lookup Route Policy	ルーティング テーブルで使用するルート検索ポリシーを指定します。
Default SIP Route	RFC 3263 に準拠した簡易ルーティング。

関連項目

- 「システム設定の管理」
- 「ルート テーブルの設定」の目次ページに戻る

ルート テーブルの追加

手順

-
- ステップ 1** [Configure] > [Route Tables] を選択します。
[Route Tables] ページが表示されます。
- ステップ 2** [Add] をクリックします。
[Route Tables] ページが表示されます。
- ステップ 3** このルート テーブルの名前を入力します。
- ステップ 4** [Add] をクリックします。
新しいルート テーブルの一覧が含まれる、[Route Tables] ページが表示されます。
- ステップ 5** [Cisco Unified SIP Proxy] ヘッダーで、[Commit Candidate Configuration] をクリックして、変更をコミットします。
-

関連項目

- 「システム設定の管理」
- 「ルート テーブルの設定」の目次ページに戻る

ルート テーブル ルートの一覧の参照

手順

-
- ステップ 1** [Configure] > [Route Tables] を選択します。
表 11 に説明されているフィールドが含まれる、[Route Tables] ページが表示されます。
- ステップ 2** 見出し [Routes] の下で、ルート テーブルに関連付けられているルート参照するには、[click here] をクリックします。
表 12 に説明されている一部またはすべてのフィールドが含まれる、[Route Table: <ルート テーブル名 >] ページが表示されます。
- ステップ 3** 各ページで異なるルート番号を参照するには、右上のドロップダウン ボックスから別の番号を選択し、[Go] をクリックします。10、25、50、100、またはすべてのルート参照するよう、選択できます。
- ステップ 4** 他のページに移動するには、右下にある左右矢印ボタンを使用するか、または他のページ番号を入力して Enter を押します。
- ステップ 5** ルートを削除するには、次の操作を実行します。
- 削除するルートの名前の横にあるボックスを選択します。
 - [Remove] をクリックします。
 - [Cisco Unified SIP Proxy] ヘッダーで、[Commit Candidate Configuration] をクリックして、変更をコミットします。
- ステップ 6** この変更内容を、最後にコミットしたときの状態に戻すには、次の手順を実行します。
- 元に戻す変更があるルート テーブルの名前の横にあるボックスをオンにします。

- b. [Revert] をクリックします。
- c. [Cisco Unified SIP Proxy] ヘッダーで、[Commit Candidate Configuration] をクリックして、変更をコミットします。

関連項目

- [「システム設定の管理」](#)
- [「ルートの設定」](#) の目次ページに戻る

ルートの追加

始める前に

ファイルから 1 つまたは複数のルートをインポートする場合、ファイルを `pfs:/cusp/routes/` ディレクトリに置きます。

手順

- ステップ 1** [Configure] > [Route Tables] を選択します。
[Route Tables] ページが表示されます。
- ステップ 2** 強調表示されている、ルートを追加するルート テーブルの名前をクリックします。
[Route Table: <ルート テーブル名 >] ページが表示されます。
- ステップ 3** [Add] をクリックします。
[Route Table: <ルート テーブル名 >] > [Route (New)] ページが表示されます。
- ステップ 4** 表 12 の説明のように、ルートに関する情報を入力します。
- ステップ 5** [Add] をクリックします。
- ステップ 6** ファイルからルート テーブルのルートをロードするには、[Import] をクリックします。
- ステップ 7** ファイルの名前を入力します。



(注) ファイルは、ディレクトリ `pfs:/cusp/routes/` にある必要があります。

- ステップ 8** [Cisco Unified SIP Proxy] ヘッダーで、[Commit Candidate Configuration] をクリックして、変更をコミットします。

関連項目

- [「システム設定の管理」](#)
- [「ルートの設定」](#) の目次ページに戻る

ルート テーブルに関連付けられているルートの編集

手順

- ステップ 1** [Configure] > [Route Tables] を選択します。
[Route Tables] ページが表示されます。
- ステップ 2** 強調表示されている、編集するルートが含まれているルート テーブルの名前をクリックします。
[Route Table: <ルート テーブル名 >] ページが表示されます。
- ステップ 3** 強調表示されている、編集するルートのキーの名前をクリックします。
[Route Table: <ルート テーブル名 >] > [Route] ページが表示されます。
- ステップ 4** 値を変更します。
- ステップ 5** [Update] をクリックします。
- ステップ 6** [Cisco Unified SIP Proxy] ヘッダーで、[Commit Candidate Configuration] をクリックして、変更をコミットします。
-

関連項目

- [「システム設定の管理」](#)
- [「ルート テーブルの設定」](#) の目次ページに戻る